

いわて未来づくり機構 医療福祉連携作業部会の
実績報告・活動計画(28.7.22)

テーマ： 医療と福祉連携体制の整備―見守りを核とした被災地の生活支援型コミュニティづくり

座長：小川晃子

担当機関：岩手県立大学

報告要旨

- ①釜石市平田地区では米国通信企業クアルコム社の助成を受け、福祉施設を見守り拠点とした重層的見守り体制の実証実験を行った。おげんき発信に、血圧・服薬支援等医療的見守りや買い物支援策（まごころ宅急便）を重ねた。人的見守りとICT活用見守りを一元化するために、ポータルサイトをモデル的に運用している。
- ②日本遠隔医療学会のICTを活用した地域包括ケアのシンポジウムを企画し、釜石の事例を報告した。また、内閣府のシンポでも発表し、県内外に政策提言をしている。

1. 平成27年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

①部会	①ほぼ1ヶ月に1回開催し、プロジェクトの運営・点検を行った。
②実証実験	②平田地区では平成27年10月～平成28年9月まで重層的見守り実証実験。ポータルサイトをカスタマイズし、釜石市応援センター（行政）、市社協、病院・薬局等で見守り情報を共有化する体制を検証。

2. 平成27年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成27年度事業計画	平成27年度事業実績・成果・課題
①市町村の地域包括ケア体制づくりに資する政策提言を行う	①釜石市の地域包括ケアに平田地区モデルを提示し関与
②産学官の検討体制を維持	②岩手県立大学教員（社会福祉・看護・ソフトウェア情報）、盛岡赤十字病院・盛岡市立病院医師、岩手県（保健福祉部）、岩手県社協、NTTドコモ、ヤマト運輸等の産学官の検討体制でプロジェクト推進
③外部資金を継続的に確保	③クアルコム社助成・県立大復興加速化PJ採択
④成果報告・普及	④広報のための動画作成。遠隔医療学会シンポや内閣府消費者委員会シンポなど県内外で成果報告

3. 平成28年度の活動計画

(1) 目標・出すべき成果

岩手県内市町村の地域包括ケアシステムづくりに対し、医療・福祉が連携した重層的・一元的な見守り体制づくりのモデル事例を提示し、政策提言をしていく。

まずは、平田地区での取り組みを釜石市全体に普及し、一関市等の新たなフィールドを加えて岩手県内での取り組み拡大に資する。

(2) 活動計画

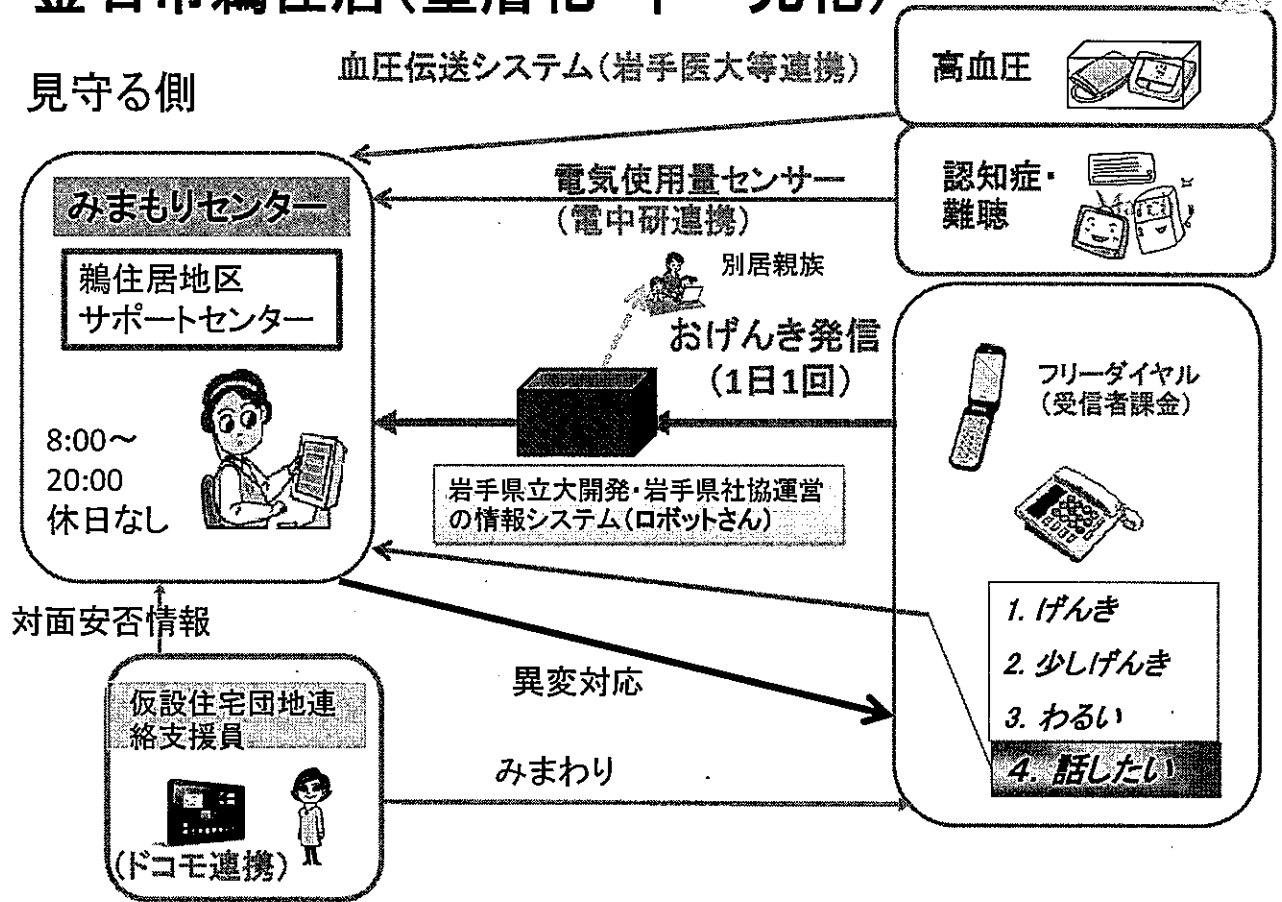
- ①産学官の検討体制を維持―研究会（部会）を定期的で開催
- ②外部資金を継続的に確保―クアルコム助成次段階も申請。県立大のH28.29復興加速化PJは採択。
- ③成果報告・普及―日本遠隔医療学会では見守り分科会として報告（10月）。内閣府・経産省・文科省のヒアリング受けている。H28年度後半には、県内市町村職員への研修等の情報提供を行う。

釜石市鶉住居(重層化・半一元化)

見守られる側

見守る側

血圧伝送システム(岩手医大等連携)



釜石市平田(重層化・一元化)

見守る側

見守られる側

